

# 在宅酸素療法中の禁煙徹底についてのお願い

京都市消防局

本年8月及び10月に、在宅酸素療法（HOT：Home Oxygen Therapy）を受けている方の住宅から火災が発生し、高齢の方が2名亡くなりました。また、過去には市内の病院においても、酸素吸入中の喫煙による出火事案が発生しています。

## ■事例1

84歳の女性が自宅で酸素吸入中に喫煙した際、たばこの火種が床面の酸素チューブの上に落ちて、酸素チューブが溶け酸素が噴出したために火事になったもので、この女性は焼死されました。

## ■事例2

70歳の男性が酸素吸入中に、たばこを吸おうとしてライターに点火したため火事になったもので、この男性は焼死されました。

## ■事例3

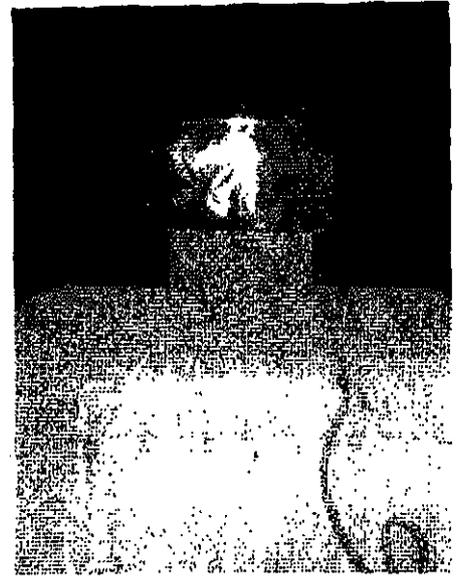
77歳の男性が、病院の廊下で酸素吸入中に喫煙したため、酸素吸入用マスクに引火して火事になったもので、この男性は1～3度の火傷を負われました。

消防局では、酸素吸入中に喫煙すると、どのようにして火事になるのかについて再現実験を行いました。

火の付いたたばこと酸素吸入用のカニューラの先端の間隔を3cmに保ち、毎分1.5ℓの酸素を流すと、約5秒でたばこが炎を上げて燃え出します。

たばこが炎を上げて燃えると簡単にカニューラに着火し、いったんカニューラが燃え出すと、酸素の作用によってカニューラの燃焼は一気に進みます。（写真1）更にカニューラからガスバーナーのように炎を噴出しながら燃焼を継続しますが（写真2）、ここまでに必要な時間は実験開始からわずか20秒です。

**写真1** 人形に装着したカニューラにたばこの火が引火して激しく燃えているところ。



**写真2** 人形から燃え落ちたカニューラが炎を噴出しながら激しく燃えているところ。



以上の実験から、酸素吸入中の喫煙の恐ろしさを再認識していただけたと思いますが、在宅酸素療法を行っている患者さんに対して酸素吸入を行いながらの喫煙の危険性をはじめ、火気取扱いについて十分に注意するよう指導していただくなど、再発防止について御協力をお願いいたします。

**■担当** 京都市消防局安全救急部市民安全課  
京都市中京区押小路通河原町西入  
榎木町450番地の2  
電話 075-212-6695